

他にも、こういう取組がありました！

「いのちの教育週間」の初日に、全校集会で校長が全校児童生徒に「いのちの大切さ」について講話をして、意識付けを図りました！

学校で発行している教育相談だよりに、教師自身の「いのち」に関する思いを記載し、生徒に配付しました！

子どもたちが書いた「いのち」や「人権」に関する作文を、給食時間に放送しました！

図書館に、命に関する本や資料を置くコーナーを設置しました！

参観日などを活用して、保護者や地域の方にも「いのちを大切にする教育」についての理解を深めました！

宮崎県動物愛護センター職員による「いのちの教育」や外部講師による「性に関する教育」、「がん教育」などにも取り組みました！

※他にも、道徳や各教科、特別活動の時間に、それぞれの学校の状況に応じて実施していただきました。

さらに

「いのちを大切にする教育」を推進していくために

- これまでも行ってきた「いのち」に係る取組を、改めて「いのちを大切にする」という視点をもち、意識的に行いましょう！
- 全教育活動において、「いのち」に関連する場面があったら、各教科、特別活動など様々な機会を捉えて指導しましょう！
- まずは、教師自身が「いのちの大切さを実感し、そのことを子どもたちに伝えていきましょう！

他にもいくつかの実践例を、教育ネットひむかのHPに掲載しています。来年度の実践の参考にしてくださいね！

平成31年3月 宮崎県教育委員会



「宮崎県いのちの教育週間」

～実践例～



宮崎県「いのちを大切にする教育」

7月第1週は「宮崎県 いのちの教育週間」です！

◆ 「いのちの教育週間」を設定した理由

夏休み明けに子どもたちが元気に、そして笑顔で登校できるよう夏休み前の7月の第1週を「宮崎県いのちの教育週間」と設定しました。

各学校で、この週を中心に「いのちの教育」を重点的に行うことで、県下一斉に「いのちの大切さ」について考える機会としました。

◆ 目指す子どもの姿

- 生まれてきてよかったと思い、いのちにかかわるまわりの人・ものに感謝する子ども
- 自分のいのちを大切にして、いのちいっぱい生きる子ども
- いのちがつながっていることを実感する子ども



◆ 「いのちを大切にする教育」実践状況

平成31年1月30日現在

	各教科	特別の教科 道徳	総合的な 学習の時間	特別活動	その他
小学校	37	100	15	95	65
中学校(※)	6	44	19	19	47
高等学校(※)	2		3	27	5
特別支援学校	2	3	2	7	3

※中等教育学校を含む



これまでの取組に「いのちを大切にする」という視点を加えた実践も多く見られました



特色ある取組をご紹介します！



[事例1] 小学校の取組 (小林市立幸ヶ丘小学校) PTA主催の行事を「いのちの教育」の視点で実施しました！

テーマ 「いのちをいただき、いのちに感謝、いのちについて考える」
～魚のつかみ取り大会～

取組内容 プールでつかみ取りした魚を、自分たちでさばいたり、下ごしらえをさせることで「命」と向き合い、命について考えました。



実施後の声 児童の日記や作文に、「生きたかったよね。ごめんね。おいしくいただきね。残さず食べるね。」等という記述があり、「命」について考えたことがうかがえました。

ここがポイント!!



○行事の前に、各学年でそれぞれ事前学習をしました。

低学年：道徳科で虫や動物の命について考える授業

中学年：理科で季節と生きものの授業

高学年：家庭科で調理実習

[事例2] 中学校の取組 (日南市立鵜戸小中学校) みんなで、人権標語や人権ポスターを作りました！

テーマ 自他の命がかけがえのないものであることを実感できるようにする。

取組内容 小学部では、人権標語や人権ポスターを作成し、廊下に掲示して保護者にも見ていただきました。また、中学部の生徒が小学部の児童に命に関する本の読み聞かせをしました。

実施後の声

「たった一つしかない、大切な宝物なので、今を幸せに生きたいと思った。これからは命を大切に一生懸命生きていきたい。」という感想がありました。



ここがポイント!!



○7月2日～6日の1週間、国語や音楽、図工などの教科、道徳科など様々な場面でいのちの大切さを考えさせる取組をしました。

○作品を掲示するなど、視覚的に訴えるよう工夫しました。

[事例3] 高等学校の取組 (日南振徳高等学校)

朝の読書の時間を活用しました！



テーマ

同年代の生徒たちの命に関わる様々な体験から、「いのち」について考える。

取組内容

通常、「読書の時間」としている朝の10分間に、同世代の生徒が書いた命に関わる作文を放送部員が朗読し、他の生徒は、放送を聴き、感想文を書きました。

実施後の声

生徒たちの多くは、改めて命について考えることができ、とても良い機会になったと感想に書いていました。また、「命はあって当たり前」という考えから、今生きていることへの感謝を考えることができたという感想を書いた生徒が多くみられました。

ここがポイント!!



○6月下旬の3日間を、学校の「いのちを大切に
する教育週間」と設定して、実施しました。

○既存の時間を生かしながら、無理のない取組で
大きな効果をもたらす取組がなされました。

[事例4] 特別支援学校の取組 (児湯るぴなす支援学校)

「いのちの教育」を意識して、継続的に取り組みました！

テーマ

「いのちの教育週間」の5日間、毎日様々な取組をしました。

取組内容

小学部から高等部までの全児童生徒を対象にした全校集会では、学級園で育てているキュウリを提示しながら水やりの大切さや植物の成長について話したり、給食指導の時には、「食や栄養」が命に関わることを伝えたりするなど、様々な場面で「いのちを大切にする内容の学習」に取り組みました。

実施後の声

花の水やりの場面では、「花に水をあげると葉っぱが伸びたり、元気になったりするね。」という言葉が出たことなどからも、「いのちの大切さ」について意識付けをすることができたことがうかがえました。

ここがポイント!!



○他にも、国語、音楽、体育、生活単元学習、特別活動など
様々な場面で取り組みました。

○「いのちの教育週間」の前に、ロゴマークを各クラスに
掲示し、子どもたちへの意識付けを行いました。